

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成27年7月2日(2015.7.2)

【公表番号】特表2014-513725(P2014-513725A)

【公表日】平成26年6月5日(2014.6.5)

【年通号数】公開・登録公報2014-029

【出願番号】特願2014-511457(P2014-511457)

【国際特許分類】

A 6 1 K	31/426	(2006.01)
A 6 1 P	31/12	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	33/00	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/4745	(2006.01)
A 6 1 K	31/215	(2006.01)
A 6 1 K	31/351	(2006.01)
A 6 1 K	31/196	(2006.01)
A 6 1 K	31/13	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/43	(2006.01)
A 6 1 P	37/04	(2006.01)
A 6 1 P	31/16	(2006.01)
A 6 1 P	31/20	(2006.01)
A 6 1 P	35/02	(2006.01)
A 6 1 P	31/06	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	31/426	
A 6 1 P	31/12	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	33/00	
A 6 1 P	43/00	1 2 1
A 6 1 K	45/00	
A 6 1 K	31/4745	
A 6 1 K	31/215	
A 6 1 K	31/351	
A 6 1 K	31/196	
A 6 1 K	31/13	
A 6 1 K	39/00	G
A 6 1 K	37/48	
A 6 1 P	37/04	
A 6 1 P	31/16	
A 6 1 P	31/20	
A 6 1 P	35/02	
A 6 1 P	31/06	

【手続補正書】

【提出日】平成27年5月15日(2015.5.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

細胞内インターフェロン産生を形成または刺激し得るウイルス感染を発症する危険性がある被験体において免疫応答を刺激するのに使用するための医薬組成物であって、

治療的に有効な量のチアゾリド化合物と、ワクチン、免疫刺激剤、ノイラミニダーゼ阻害剤、アダマンチン類似体または組換えシアリダーゼ融合タンパク質のうちの少なくとも一つを含み、前記チアゾリド化合物が、ニタゾキサニドもしくはチゾキサニドもしくはRM-4848または、それらの塩、多形体、エステル、アミド、プロドラッグもしくは誘導体である、前記医薬組成物。

【請求項 2】

前記被験体が、ウイルス感染、ガンまたは細胞内原虫感染を患っているか、あるいは、ウイルス感染、ガンまたは細胞内原虫感染を発症する危険性がある、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

前記チアゾリド化合物が、ワクチンとの組み合わせで投与される、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 4】

前記免疫応答を刺激することが、前記被験体におけるウイルス感染の処置または予防をもたらす、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記ウイルス感染が、インフルエンザ感染である、請求項5に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

前記ウイルス感染が、H1N1、H2N2、H3N2、H5N1、H7N7、H1N2、H9N2、H7N2、H7N3およびH10N7から選択されるウイルスにより引き起こされる、請求項6に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

前記ウイルス感染が、B型肝炎である、請求項5に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

前記免疫応答を刺激することが、前記被験体におけるガンの処置または予防をもたらす、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 9】

前記ガンが、白血病、メラノーマ、非ホジキンリンパ腫または腎細胞ガンである、請求項8に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

前記免疫応答を刺激することが、前記被験体における細胞内原虫感染の処置または予防をもたらす、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項 11】

前記細胞内原虫感染が、クリプトスporidium (Cryptosporidium) 種、リーシュマニア (Leishmania) 種、トキソプラズマ原虫 (Toxoplasma gondii) およびトリパノソーマ・クルージ (Trypanosoma cruzii) からなる群から選択される、請求項10に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

前記免疫応答を刺激することが、細胞内細菌感染の処置または予防をもたらす、請求項1に記載の医薬組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0070

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0070】

前述のものは、特定の好ましい実施形態に言及しているが、本発明は、そのように限定されないことが理解されるであろう。当業者であれば、開示された実施形態には、種々の改変がなされてもよく、このような改変が本発明の範囲内であることが意図されることを気付くであろう。

本発明は、以下の態様を包含する。

[1]

それを必要とする被験体において免疫応答を刺激する方法であって、

治療的に有効な量のチアゾリド化合物を含む医薬組成物を前記被験体に投与する工程を含み、前記チアゾリド化合物が、ニタゾキサニドもしくはチゾキサニドもしくはRM-4848または、それらの塩、多形体、エステル、アミド、プロドラッグもしくは誘導体である、前記方法。

[2]

前記被験体が、ウイルス感染、ガンまたは細胞内原虫感染を患っているか、あるいは、ウイルス感染、ガンまたは細胞内原虫感染を発症する危険性がある、上記[1]に記載の方法。

[3]

前記チアゾリド化合物が、ワクチンとの組み合わせで投与される、上記[1]に記載の方法。

[4]

前記チアゾリド化合物が、免疫刺激剤との組み合わせで投与される、上記[1]に記載の方法。

[5]

前記免疫刺激剤が、イミキモドまたはレシキモドである、上記[4]に記載の方法。

[6]

前記チアゾリド化合物が、ラニナミビル、オセルタミビル、ザナミビルおよびペラミビルからなる群から選択されるノイラミニダーゼ阻害剤との組み合わせで投与される、上記[1]に記載の方法。

[7]

前記チアゾリド化合物が、アダマンチン類似体との組み合わせで投与される、上記[1]に記載の方法。

[8]

前記チアゾリド化合物が、組換えシアリダーゼ融合タンパク質との組み合わせで投与される、上記[1]に記載の方法。

[9]

前記免疫応答を刺激することが、前記被験体におけるウイルス感染の処置または予防をもたらす、上記[1]に記載の方法。

[10]

前記ウイルス感染が、インフルエンザ感染である、上記[9]に記載の方法。

[11]

前記ウイルス感染が、H1N1、H2N2、H3N2、H5N1、H7N7、H1N2、H9N2、H7N2、H7N3およびH10N7から選択されるウイルスにより引き起こされる、上記[10]に記載の方法。

[12]

前記ウイルス感染が、B型肝炎である、上記[9]に記載の方法。

[1 3]

前記チアゾリド化合物が、抗B型肝炎剤との組み合わせで投与される、上記[9]に記載の方法。

[1 4]

前記チアゾリド化合物が、ワクチンとの組み合わせで投与される、上記[9]に記載の方法。

[1 5]

前記チアゾリド化合物が、免疫刺激剤との組み合わせで投与される、上記[9]に記載の方法。

[1 6]

前記免疫刺激剤が、イミキモドまたはレシキモドである、上記[15]に記載の方法。

[1 7]

前記チアゾリド化合物が、アダマンチン類似体との組み合わせで投与される、上記[9]に記載の方法。

[1 8]

前記チアゾリド化合物が、組換えシアリダーゼ融合タンパク質との組み合わせで投与される、上記[9]に記載の方法。

[1 9]

前記免疫応答を刺激することが、前記被験体におけるガンの処置または予防をもたらす、上記[1]に記載の方法。

[2 0]

前記ガンが、白血病である、上記[19]に記載の方法。

[2 1]

前記白血病が、ヘアリー細胞白血病または慢性骨髄性白血病である、上記[20]に記載の方法。

[2 2]

前記ガンが、メラノーマである、上記[19]に記載の方法。

[2 3]

前記ガンが、非ホジキンリンパ腫である、上記[19]に記載の方法。

[2 4]

前記ガンが、腎細胞ガンである、上記[19]に記載の方法。

[2 5]

前記チアゾリド化合物が、ワクチンとの組み合わせで投与される、上記[19]に記載の方法。

[2 6]

前記チアゾリド化合物が、免疫刺激剤との組み合わせで投与される、上記[19]に記載の方法。

[2 7]

前記チアゾリド化合物が、抗ガン剤との組み合わせで投与される、上記[19]に記載の方法。

[2 8]

前記抗ガン剤が、S T I 5 7 1、C G P 7 4 5 8 8、1 - - D - アラビノフラノシリシトシン(Ara-C)、ドキソルビシン、ダカルバジン、シスプラチニン、ブレオマイシン、ビンクリスチン、ロムスチニン、ビンブラスチニン、カルムスチニン、D T I C、タモキシフェン、スニチニブ、ソラフェニブおよびインターフェロン-からなる群から選択される、上記[27]に記載の方法。

[2 9]

前記免疫応答を刺激することが、前記被験体における細胞内原虫感染の処置または予防をもたらす、上記[1]に記載の方法。

[3 0]

前記細胞内原虫感染が、クリプトスポリジウム (Cryptosporidium) 種、リーシュマニア (Leishmania) 種、トキソプラズマ原虫 (Toxoplasma gondii) およびトリパノソーマ・クルージ (Trypanosoma cruzii) からなる群から選択される、上記 [29] に記載の方法。

[31]

前記チアゾリド化合物が、ワクチンまたは、免疫刺激剤または、抗原虫薬との組み合わせで投与される、上記 [29] に記載の方法。

[32]

前記チアゾリド化合物が、トリメトプリム / スルファメトキサゾール、アトバコン、クリンダマイシン、ピリメタミン、スピラマイシン、ジミナゼン (diminazine)、ホミジウム、スラミン、メラルソミン (melarsamine)、スチボグルコン酸ナトリウムおよびアンチモン酸メグルミンからなる群から選択される抗原虫薬との組み合わせで投与される、上記 [31] に記載の方法。

[33]

前記免疫応答を刺激することが、細胞内細菌感染の処置または予防をもたらす、上記 [29] に記載の方法。

[34]

前記細胞内細菌感染が、ヒト型結核菌である、上記 [33] に記載の方法。